

問 観光地経営計画は実行段階にあるのか
答 現時点で運営上課題があるのも事実



伊藤まゆみ 議員

【観光計画と財源検討】

問 平成13年作成の「21世紀白馬村観光の飛躍に向けて」の報告書に謳われているビジョン、計画を検証し、「観光地経営計画」に反映されているのか。

答 平成19年に観光局の事業検証を行った際に、一部内容の検証を実施。また、平成27年の観光地経営計画策定の際にも、ワーキンググループの委員に説明し、この報告書を踏まえた計画を策定した。

問 「観光地経営会議」は2年経過したが、その中の課題は。本年度の方針は。

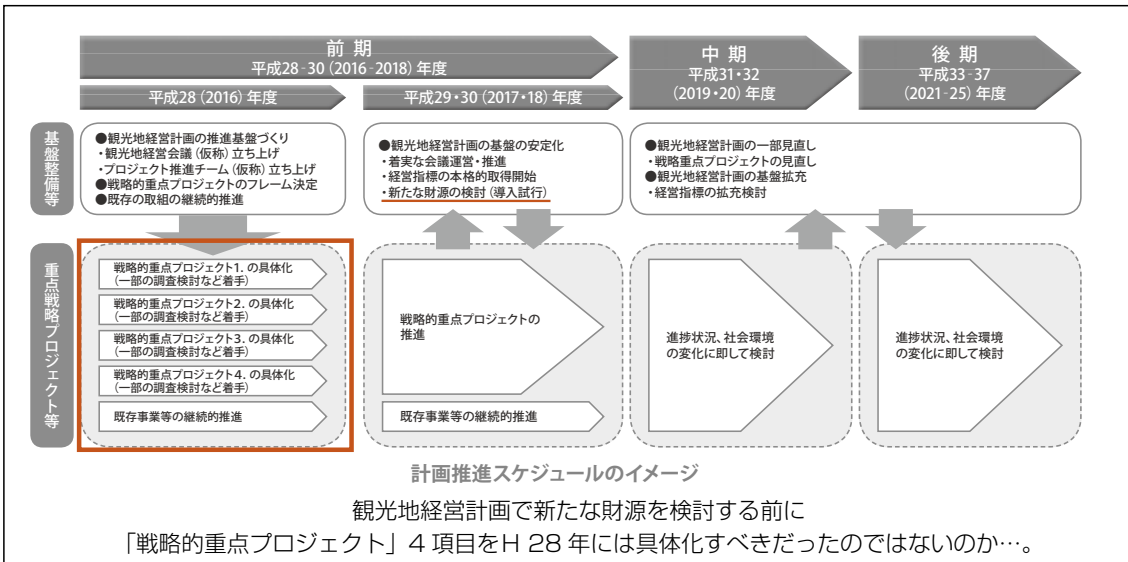
答 正しい指標の取得と各種観光施策の現状の把握が非常に難しい。本年は各事業所に対してどのような事業を行う

ているか調査をし、次回会議で事業検証を行う。

問 観光地経営計画に2400万円もの税金を投入した。この計画の質問を二年前にした際、当時の観光課長は、「計画を実行に移すプロセスまで管理をしながら計画づくりをした点」が今までと違うと答弁。現在、実行に移すプロセスに至っていないのか。

答 運営上課題があるのも事実。行政が一番計画を立ててダメなのは、計画を立てて終わりになってしまう傾向がある点。

運営上課題があるのも事実。行政が一番計画を立ててダメなのは、計画を立てて終わりになってしまう傾向がある点。



まずそれを打破する意味で、計画の進捗状況の管理及びデータ取得に積極的に関わっている。

問 財源検討委員会で今後の予定が変更され、第3回の委員会が延期。答申時期も延期をせざるを得ない状況に思われるが、主たる要因は。

答 7月に宿泊施設の方たちから要望が検討委員会宛てに、また商工会の一部の会員からも村長宛てに意見書が提出された。主な内容は、財源の使途を明確にすること、慎重審議を重ねることなど。住民の理解を得るため、幅広く意見を聞くという手順が必要で、ワーキンググループなどの方法を検討。

問 民間活力を活かした観光局の改革は4年後の現在もなお課題は残っている

答 4年前の公約には、「観光振興では民間活力を活かし、観光局を改革する」とあった

問 過去4年の検証と今後の方針

答 協力してもらえ民間業者がいることが前提。その上で事業費や財源の議論が必要で、事業の推進には時間がかかるとの認識。連携事業者との交渉や発掘、財源の検証などできるところから取り組む。

問 「新・道の駅」の今後は。

答 課題解決の委員会を設け5回にわたって検討。提出された結果報告書に従い、分担金の減額を実施したが、運営財源不足や会員拡大など、4年後の現在もなお課題は残っている。しかし全国自治体で日本一の「いいね」数を誇る観光局のフェイスブックトしている。



全国自治体で日本一の「いいね」数を誇る観光局のフェイスブック

問 「新・道の駅」の今後は。

答 協力してもらえ民間業者がいることが前提。その上で事業費や財源の議論が必要で、事業の推進には時間がかかるとの認識。連携事業者との交渉や発掘、財源の検証などできるところから取り組む。